

2015 | 世界ボランティア白書

ガバナンスの変革



UN

Volunteers

inspiration in action

国連ボランティア計画（UNV）は、全世界のボランティアリズムを通じ、全世界の平和と開発に貢献する国連機関です。

ボランティアリズムは、人々に開発課題への取り組みを働きかける強力な手段であり、開発のスピードと性質を変容させることができます。ボランティアリズムは、市民の間での信頼と連帯、相互関係を強め、目的を持って参加の機会を作り出すことにより、社会全体とボランティアの一人ひとりに利益をもたらします。

UNVは、ボランティアに対する認識の向上を提唱し、パートナーとの協力によって、ボランティアリズムの開発計画への統合を図るとともに、経験豊富な国連ボランティアをはじめ、全世界で活動するボランティアを増員、多様化することにより、平和と開発に貢献します。UNVは、ボランティアリズムを普遍的で包摂的なものとして支持し、自由意志、コミットメント、参画、団結というボランティアが標榜する価値だけでなく、その多様性も認識しています。



Empowered lives.
Resilient nations.

UNVの運営は国連開発計画（UNDP）が担当しています。

2015 | 世界ボランティア白書

ガバナンスの変革



UN

Volunteers

inspiration in action

Copyright © 2015
by the United Nations Volunteers (UNV) programme

著作権所有。本書のいかなる部分も、事前の許可がない限り、いかなる形でも、また、いかなる手段によっても複製したり、情報検索システムに保存したり、転送したりしてはなりません。

編集：Communications Development Incorporated, Washington, DC, USA
レイアウト・デザイン：Phoenix Design Aid, Randers C, Denmark
翻訳：Strategic Agenda, London, United Kingdom
印刷：Phoenix Design Aid, Randers C, Denmark

ISBN：978-92-95045-85-9

印刷後に発見された誤りや抜けについては、UNVのウェブサイトwww.unv.orgをご覧ください。

本書の分析と政策提言は必ずしも、国連開発計画の見解を反映するものではありません。本書の調査と執筆は、世界各地のボランティア白書チームと、内外の顧問グループが共同で行いました。

商品名やビジネス・プロセスへの言及は、それらに対する支持を表明するものではありません。

世界ボランティア白書チーム

チーム・リーダー

アマンダ・コジ・ムクワシ

調査・執筆チーム

ティナ・ウォーレス（主任調査員）、スブラ・バタチャルジー、メイ・チャオ、ピーター・デベロー、ヘバ・エル=ホリー、エリザベス・ハッカー

プロジェクト管理

メイ・チャオ

調査調整

スブラ・バタチャルジー

政策調整

ヴェラ・クロボク

グローバル普及調整

ジェニファー・スタッパ

業務運営サポート

ジャン・ドゥデュー・カマンジ

はじめに

ミレニアム開発目標（MDGs）とポスト2015年開発アジェンダに関する議論は、世界の全地域で多くの国々が成し遂げた人間開発の大きな成果に関心を引きつけました。また、前進が行き詰まったり、不十分だったりする根本的な理由も明るみに出しました。例えば、効果的で責任あるガバナンスがなければ、前進に対する障害となり、生活を改善し、コミュニティの見通しを明るくしようとする国や地域社会の取り組みが損なわれるおそれもあります。

ポスト2015年持続可能な開発アジェンダを成功に導くためには、ガバナンスの改善、不平等の解消、そして声と参加の拡大に同時に取り組む必要があります。ボランティアリズムは、ステークホルダーに発言力を与え、人々や市民社会団体を解決策への貢献に向けて動員することにより、その役に立つことができます。

この白書は、政府や市民社会団体、多国間・二国間開発機関その他のステークホルダーが、グローバル、国、ローカルのレベルでそれぞれ、その潜在能力をフルに発揮するための参考資料として作成されています。

グローバルなレベルで、白書は、ボランティア・ネットワークがテクノロジーを活用することによって、どのようにボランティアリズムを前進させ、開発主体の間につながりを作り出しているのかを示す事例を紹介します。携帯電話をはじめとする情報通信技術の急速な普及は、ボランティアリズムの範囲を深く広く拡大しています。これによって、士気と意欲のある人々や集団が交流して相互に学び、新たな機会や資源を見つけることが可能になっています。ボランティア白書では、ポスト2015年開発アジェンダの実施に貢献しつつ、国連その他のグローバル・フォーラムをはじめとする場を含め、社会的に弱く、排除された人々が自らに影響を与える決定についての発言権を得られるよう、こうした取り組みをどのように拡大しようかという点についても提案を行います。

国レベルで、白書は、開発の前進を支援するボランティアの能力が、その参加とイニシアティブを促す空間と支援環境を確保しようとする各国政府の意志にかかっていることを示唆します。白書の調査結果によると、ボランティアリズムは、社会

的な信頼感を醸成し、社会的連帯を進め、基本的なサービスを改善し、人間開発を推進することに役立つ可能性があります。ボランティアとボランティアリズムは、言論や結社の自由、活発な政治的議論ができる雰囲気といった環境がすでに整備されている場合、最も大きな利益をもたらします。

ローカルのレベルで、白書は、社会からの排除や疎外の対象となっているコミュニティの人々にとって、ボランティアがますます自分たちの声を伝え、生活の改善に必要なサービス、資源、機会にアクセスするための手段となってゆく可能性を示唆しています。そして、ボランティアが地方自治体や志を同じくする地域社会や幅広い市民社会の集団と連携し、女性を含む疎外された人々が情報にアクセスし、自らの将来の見通しを改善したり、行政のアカウントビリティを追求したりするために必要な能力を強化できるよう、支援を提供することを提言しています。白書は、例えばインドのウッタラーカンド州農村部の女性ボランティアが「全村グループ」を結成し、学び合いを支援するとともに、地方自治体の職員に働きかけたり、自分たちの権利を守ったり、コミュニティ改善のパートナーとなったりするために必要な能力を育成している様子も詳しく紹介しています。

私たちは国連ボランティア計画においても、国連開発計画においても、ボランティアが世界をよい方向に変える場面を目の当たりにしています。私たちの経験からも、この白書に反映された証拠からも、政府や開発関係者がそれぞれのボランティアの意欲とコミットメントに見合う対応と支援を行う必要性が理解できます。私たちはこの白書が、より多くの場所でより多くの人々が開発の前進を阻む疎外や差別、不平等と対峙するとともに、あらゆる次元で貧困を根絶し、すべての人にとって持続可能な開発を達成するという、世界各地の人々とリーダーが共有する夢の実現に協力できるよう、そのエンパワーメントに向けて検討、議論、利用されることを期待しています。



ヘレン・クラーク
国連開発計画（UNDP）総裁

はしがきー可能性の美学

ボランティアリズムとガバナンスに関する今回の第2次「世界ボランティア白書」では、ボランティアリズムと人間を中心に据えた開発政策・投資が、持続可能な開発に向けて活用できる可能性を秘めていることを示しています。白書は、ボランティアリズムが、その他の開発関連の解決策や資源を補足するグッド・ガバナンス（良き統治）の重要な柱として、発言と参加、アカウントビリティ、対応を可能にするスキル、知識および専門能力を結集させるための追加的な資源と手段になると主張しています。

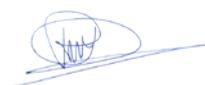
白書では、豊富な証拠に基づき、ボランティアリズムがどのように平和と開発を推進できるのかを紹介します。そして、一定の文脈における成果を示すことにより、ボランティアとボランティアリズムの潜在的な貢献を明らかにします。この「可能性の美学」を実証するケーススタディは、人々が個人や集団として力を合わせ、様々なガバナンス空間で行動している事例を極めて幅広く取り上げています。白書では、政府その他のガバナンス主体が環境を整備し、閉鎖空間へと人々を招き入れれば、より幅広く共有、支持される変革が生じることも実証します。

フォーマル、インフォーマルにかかわらず、ボランティア活動の事例は、女性や先住民、無力な立場に置かれた若者など、社会的に疎外された人々が、自分たちの声を発信し、ローカルなレベルでガバナンスに影響を与える空間を作り出せるという事実を証明しています。白書では、女性の参画という問題に取り組み、女性がいかにして伝

統的な規範を外れた空間に参画し、当局のアカウントビリティを問い、そのニーズとコミュニティへの対応を確保できたかを示す、興味深い事例を取り上げます。これらの事例からは、社会的に疎外された集団が連携し、自分たちのごくわずかな資源を活用してコミュニティに情報を伝え、その変革を図っている姿が見て取れます。

2011年に発表された第1次白書に、ガバナンスを扱う章はありませんでした。ボランティアリズムとガバナンスに関する証拠を収集することが困難であることは認識しているものの、持続可能な開発アジェンダに関する議論が盛んになってきた現状と、新たなマルチステークホルダー型パートナーシップが実施手段として不可欠なものになるという認識から、私たちは今回、この問題を取り上げることにしました。ボランティアリズムとその平和、開発への貢献をよりよく理解し、文書化し、測定するためには、さらなる研究とイノベーション性に富む戦略的パートナーシップが必要です。この白書は、これから掘り下げてゆくことが可能かつ必要となる会話の出発点となるものです。

私たちはこの白書で、可能性の美学を提示したいと思っています。私たちが入手できる資源をすべて開発に活用すれば、現代の課題は克服可能なものに見えるはずです。人々がボランティア活動に時間を費やせる環境を整備すれば、そのスキルや知識をガバナンス分野の公益のために利用することが可能になります。私たちは、声を上げ、参加し、ガバナンス主体のアカウントビリティを問うことのできる人々を増やすことができるのです。



リチャード・ディクタス
国連ボランティア計画（UNV）事務局長

2015世界ボランティア白書 概要

ボランティア活動は ローカル、国、 さらには グローバルな レベルでの 参画に向けた 重要な手段を提供

将来の開発アジェンダに取り組むためには、人々を自分自身、自らのコミュニティ、そして自国の開発によりよく参画させるための根本的シフトが必要だという合意が、幅広く見られています。新たな議論や交渉、決定を可能にするためには、市民参画のためのメカニズムを強化する必要があります。この白書は、ケーススタディを通じて収集した体系的知識を用いて、ボランティア活動がローカル、国、さらにはグローバルなレベルで、この参画に向けた重要な手段を提供することを実証するものです。新たなガバナンス主体の出現を通じ、ローカルからグローバルに至るまで、あらゆるレベルの関連性が強まる中で、ボランティアリズムも適応と変化を遂げています。行動的なグローバル市民はすでに、様々な方法や様々なレベルで、新旧の中心的なガバナンス問題への取り組みに参画しています。

白書は、声と参加、アカウンタビリティ、対応性という、ボランティアのインパクトが実証されたガバナンスの3本柱に注目し、ボランティアリズムに関する重要な戦略、課題および機会を明らかにしています。具体的なボランティアの行動や戦略は、ボランティアが多様な形で、誘導空間に参画したり、閉鎖空間を開放したり、新たな空間を求めたりしていることを実証しています。誘導空間とは、ガバナンス主体が市民や受益者に参加を促している場を指します。閉鎖空間とは、アクセスのルールが設けられ、一定の人々またはグループのみが参加できる場を指します。要求空間とは、力が小さかったり、社会から疎外されたりしている人々が、社会運動や地域自治会を通じてインフォーマルに、または、人々が自発的に討論や議論、抵抗を行うために集まることによって組織的に、空間を要求または創出できる場を指します。ボランティアには、プラスの変化に貢献する主体性と意志はあっても、資源や権力の不平等をはじめ、ガバナンス関連の課題に多く直面します。声を上げることは、参画を求める戦略ではあるものの、あらゆるレベルの主要なガバナンス主体から、議論と政策決定の場に招かれる機会がさらに多く必要です。

ボランティアリズムは、個人、コミュニティ、国およびグローバルなレベルでの幅広い活動を包含する概念です。こうした活動としては、従来型の

共助と自助のほか、正規のサービス提供が挙げられます。また、参加を可能にし、促進することや、アドボカシーやキャンペーン、社会運動を通じた参画も含まれます。この白書で用いられるボランティアリズムの定義には「自由意思且つ一般的な公益のために行われる活動で、金銭的な報酬を主たる動機としないもの」という文言が見られます。

この白書で言うボランティア活動は、社会運動と重複、収斂するものとしても理解できます。運動家がすべてボランティアというわけではないものの、運動家の多くがボランティアであり、ボランティアの多くが運動家であることは確かです。ボランティアリズムと社会運動という2つの表現は、相互排他的なものではありません。サービスの提供を支援したり、慈善活動に携わったりするのがボランティアだというのは、狭い考え方であり、ボランティアリズムと社会運動との間に表面的な境界線を設けるものにすぎません。

白書は、ボランティア活動がそれぞれの文脈において特有なものであり、しばしば公平な条件が与えられていないことを示しています。女性や社会的に疎外された集団は、この不公平の影響を被ることが多くなっています。すべてのボランティアがどの文脈でも、公平かつ平等な条件で参加できるというわけではないからです。人々が排除され、その声がかき消され、自治が損なわれ、問題提起のリスクが大きい場合、ボランティアリズムの背景となる文脈は厳しくなります。すべての人の権利を尊重する環境が整備されれば、ボランティアリズムが開発や平和に貢献できる能力は高まります。白書は、持続可能な開発に貢献できる市民参画に向けた環境をさらに整備することが、成功に欠かせないことを示しています。

この白書のケーススタディでは、政策決定空間から締め出され、その声を無視された人々が、その他の手段を使って、よりフォーマルな政策決定空間への参入を要求するようになることを示しています。こうした人々は、フォーマル、インフォーマル双方のガバナンス制度に異議を唱え、政府であれ、企業であれ、多国間機関であれ、権力者に対して、より一層のアカウンタビリティと対応を要求することができるのです。

ケーススタディからは、政府が率先して平和と開発のためにボランティアリズムを活用する場合、ボランティアの参画の大部分が誘導空間で起きることも分かります。人々が主導権を握る場合、このような参画は少なくとも当初、要求空間で多く生じます。後の段階では、その一部が誘導空間へ移動することもあります。しかし、いずれの場合でも、ボランティアは、要求空間と誘導空間で活動しながら、閉鎖空間での政策決定に影響を及ぼそうとします。

白書は、フォーマル（国際的ボランティア活動を含む）、インフォーマルにかかわらず、ローカルからグローバルまでの全レベルで、あらゆる形態のボランティアやボランティアリズムとの連携の大幅な強化を求めています。このような連携強化を行うためには、ボランティアのニーズや権利を理解するとともに、ボランティア活動に資源と支援を提供し、これと積極的に関わることで、ガバナンスを改善する道を探ることが必要です。

ボランティアリズムとガバナンスに関する文献は、わずかしかありません。この白書は、特に開発途上国において、ボランティアリズムのガバナンスへの貢献に関する体系的証拠を照合するための第1歩となるものです。また、ガバナンスにおけるボランティアリズムの役割に関し、今後も継続すべき対話をスタートさせるものでもあります。

主なメッセージ

白書は、開発プロセスとガバナンス実践、政策、戦略の強化に向けた重要な検討材料として、主に下記のメッセージを発信します。

ローカル・レベルのボランティアリズムは、人々の能力を高める。

ローカル・レベルのボランティアリズムは、社会的に疎外された人々を含め、人々が地方自治体や国内的、国際的市民社会団体（Civil Society Organization、CSO）と連携し、ガバナンス・プロセスの参加性と連帯性を高める能力を与えます。女性をはじめとする社会的に疎外された集団にとって、発言力を強め、参加を拡大する新たな経路が生まれることは、そのニーズが考慮されたり、その特殊なニーズに資源が配分されたりすることにもつながる可能性があります。

ボランティアリズムのための空間を拡大している国の政府は、社会的連帯を達成できる。

各国政府は、ボランティアリズムのための空間を拡大すれば、社会的な連帯が高まり、社会と開発面の成果が改善し、サービス運営が円滑化されることを認識することになるでしょう。言論や結社の自由、活発な政治的議論ができる雰囲気などの条件がすでに整備されていれば、ボランティアやボランティアリズムとの連携の見返りは、最も大きくなります。ブログやモニタリング・プラットフォーム、ソーシャルメディアにより、ボランティアは草の根で作成されたリアルタイムの情報で主流メディアを補完するとともに、発言と対話に向けた新たな入り口を見出せるようになっていきます。

グローバルなボランティアのネットワークは発言、参加、アカウンタビリティ、対応を促進する。

グローバルなボランティアのネットワークは、多様な戦略を用いながら、ローカル、国、グローバルの空間をつなぎ合わせて、発言と参加、アカウンタビリティ、対応を効果的に促進しています。テクノロジーは、これらプロセスを可能にする手段として、ボランティアによる参画のスピードと幅を向上させ、アライアンスを作り上げ、専門能力を共有し、あらゆるレベルでガバナンス主体に働きかけています。しかし、最も社会から排除されている人々の議論への参加を確保するためには、アクセスの不平等に取り組まなければなりません。

ボランティアリズムは、ポスト2015年持続可能な開発アジェンダに資源を動員するうえで、貴重な役割を果たす。

ボランティアリズムは、すべてのステークホルダーの声を集め、新たなポスト2015年開発アジェンダの実施と監視に向けて、入手可能な資源をすべて動員するうえで、強力なリソースとなります。参加の拡大に伴い、CSOを含むガバナンス主体、民間セクターその他、ガバナンスとサービス提供にますます重要な役割を果たす者の対応力を強化する必要があります。ボランティアリズムがこのポテンシャルを発揮する機会と空間を設けるためには、ガバナンスの各レベル間で幅広い戦略やパートナーシップ、アライアンスを立ち上げることが必要です。

持続可能な開発に
貢献できる
市民参画に向けた
環境をさらに
整備することが
成功に不可欠

ローカル・レベルでのインパクト

全世界で数百万人のボランティアが、ローカル・レベルのガバナンスに貢献しています。政府が政策決定プロセスへの参加を促すローカル・メカニズムを設けていることに呼応し、ボランティアはますます、自分たちの生活に直接影響を与える問題に関わる政策の策定と決定に関与するようになってきました。政府による空間拡大の具体例は、ネパールの村落開発委員会や、ケニアとウガンダの村落計画・コミュニティ開発資金管理などに見られます。こうした対話のためのメカニズムは、政府（およびその他ガバナンスに関与する組織）に対し、市民と直接に関係を持ち、意思疎通を行うための実際的な方法を提供しています。こうした空間は、ボランティアがサービス提供方法に関する政策や実践の策定に協力したり、実施を監視したりする機会を提供することもあります。

ボランティアは、フォーマルな地方自治構造の外でも活動し、その声を伝達したり、政府によるそのニーズへの対応を確保したりしています。ボランティアは、インフォーマルな場で自らのニーズに取り組み、声を上げることで、社会的な規範や価値に影響を与え、これを形成することができます。そして、議論の幅を広げ、新たなアイデアを政策アジェンダに持ち込んだり、現状に異議を唱えたりできます。それによって、たとえ短期的に政策立案者や政策の結果を左右することはできないとしても、世論を動かし、長期的な社会変革をもたらせる可能性はあります。また、数多くの意見と連携することで、政府がより幅広いニーズへの対応を強めることもあります。

ローカル・レベルでのボランティアリズムの実践によって、人々は新たなスキルを習得し、その権利に対する理解を深めることができます。また、個人が家庭や村落を越え、参画や参加の場を広げたり、政府の公約や支出を監視、追跡したり、ローカルから国、さらにはグローバル・レベルでさえも活動できる集団を構築したりする能力を育成できるようにもなります。多くの女性にとって、それはエンパワーメントの手法となりうる一方で、社会から排除されてきた多くの人々にとっては、地方の行政機関や国内・国際CSOと連携する能力を育成することにも繋がります。

地域密着型のボランティア活動では、より多くの市民の発言力を強めと参加を促進し、ボランテ

ア自身のコミュニティの今後を左右する政策立案に影響を与えるため、様々な戦略を採用しています。地域社会のボランティアの中には、単独で活動している者もいれば、国内・国際CSOなど、外部の主体と連携して活動している者もいます。さらに、ネットワークを結成したり地方行政機関との連携によって、ガバナンス・プロセスの参加性と包摂性を高めようとしていたりしているボランティアもいます。

ローカル・レベルのボランティアリズムにも、課題はあります。このレベルでは特に、政府が業務負担をボランティアに押し付けるおそれがあるからです。また、参加空間が引き続きエリート集団に支配されていることで、政策決定へのアクセスにおける不平等が縮小するどころか、かえって増幅してしまう可能性もあります。「名ばかり」の参加型フォーラムには、実質的な権限がないこともあります。また、見解を異にする人々からの報復に直面するボランティアもいます。

しかし、こうした困難に面しながらも、地域社会でのボランティアリズムには、サービスを拡大、改善し、最も疎外された人々の発言力やスキルを高め、現地の知識を取り入れ、抑制と均衡を保ち、意見の多様性を促進するポテンシャルがあるということが実証されています。これらはすべて、さまざまな文脈に応じて、声と参加を拡大し、ガバナンスのアカウンタビリティと対応性を強める結果をもたらす可能性があります。

国レベルでのインパクト

ボランティアリズムは政府に働きかけることにより、社会の連帯性を高め、社会と開発の成果を改善し、平和を育むような形で、中心的なガバナンス問題に作用すると考えられています。ボランティア活動は、政府が率先してボランティアを参画させる場合と、人々が主導権を握る場合の2つに大別されます。透明性の向上、サービス提供の監視、ボランティア機関の設置、フォーマルなボランティア（国内、国際）との密接な協力といった問題については、政府がボランティアの協力を促すことが多くなっています。既述のとおり、言論や結社の自由、活発な政治的議論ができる雰囲気などの条件が整備されている場合、幅広いガバナンス問題に関するボランティアとの連携は最も大きな利益をもたらします。ボランティアはまた、声を上げたり、アカウンタビリティ・メカニズム

**ボランティアは
社会的な規範や
価値に影響を与え、
これを形成できる**

の導入を求めたり、対応を要請したりするために、様々な形で行動や参画を行います。これらはいずれも、ガバナンスの改善には欠かせない要素となります。

政府がボランティアの参画を強化するための体制を導入している場合には、ボランティアリズムの力を組織的に活用することが可能になるとともに、ボランティアが国家開発計画にとって重要な分野で主導権を握る余地も生まれています。例えば、ホンジュラスやモザンビーク、ペルーでは、政府が立法プロセスにおいて、ハイレベルのステークホルダー参加を促しています。その他、ガーナやケニアをはじめとする政府も同様に、法律と資源に裏づけられたフォーマルなボランティア体制を導入し、若いボランティアに対して、農村部での保健と教育の推進に時間を割き、有給の仕事に就き、市民参画の目的と価値を学ぶよう働きかけています。

長期にわたって市民に政策の策定と実施への参画を呼びかけている政府もあります。ブラジルでは、国と市民社会の密接な連携により、新たな保健政策の策定が可能になり、これによって公的医療の分配の不平等は縮小されました。

多くのボトムアップ型のボランティア・イニシアティブを成功に導くためには、大規模な動員が欠かせません。これを実現するために、ボランティアがアライアンスを組むことも多くあります。CSOや政府、議会内の擁護者は、重量なパートナーとなりえます。バングラデシュのNGO「ナリポッコ」は、女性の暴力被害者の権利を擁護し、女性に対する暴力に関する法律の制定に影響を与えましたが、この成功には政府のほか、草の根組織「ドゥルバール」とのアライアンスが欠かせませんでした。ステークホルダーの集団が小さい場合には、国際的なアライアンスや対話のできる人間の起用によって、必要な支援が得られることもあります。例えば、アラブ地域の国籍法については、他の関係国の政府や議会、CSOに強力な支持者を見出すことが、成功の大きな要素となった国も見られます。

ボランティア・イニシアティブの中には、メディアを活用して意識を高め、政策立案者を啓発し、世論を動員するものが多くあります。ナリポッコは家庭内暴力の「可視化」を図るメディア・キャンペーンを展開しました。新世代のテクノロジー

に長けたボランティアは、リアルタイムで草の根情報を提供するツールを開発しています。こうした取り組みは、自分たちのウェブサイトやブログでニュースや観点を提供し、人々の主流メディアへの依存度を低下させ、場合によっては従来の報道サイトに肝心な情報を提供する義務を課すことにより、主流メディアを補完しているのです。

国内レベルでのボランティア主導型イニシアティブの成功を大きく左右するのは、対応力のある政府の存在です。ボランティアの運動それ自体が、政府の対応力を高めるために必要な政治的圧力を生むことがあります。また、理解ある政府によって、ボランティア・イニシアティブが可能になったり、促進されたりすることもあります。よって、大きな成功を収めているボトムアップ型のボランティア・イニシアティブは、ある領域で政府の政策を批判したり、疑問視したりしていても、他の領域で政府との協調的な関係づくりを図っています。

幅広い参加のための環境と、最も大きな被害を受けている人々の声をはじめ、複数の意見を聞く余地を確保して、その声が届くようにし、恒久的な平和の実現に資するとともに、社会的な亀裂を修復するためには、政府、支配集団またはエリート層のある程度の対応が必要です。安定的かつ平和的な条件の下では、声や参加で対応を引き出すことができますが、一定の紛争中および紛争後の状況においては、声や参加よりも先に、対応が必要となることがあります。スリランカでは、対応力を備えた政府が和解に向けた一歩を踏み出して初めて、フォーマル、インフォーマルなボランティアの両者が、市民の復興を促す重要な役割を果たしました。政府軍と「タミル・イーラム解放のトラ」との間で続いていた内戦が2009年に終結したことを受け、スリランカ政府は2011年、市民社会と地方自治体とのパートナーシップに向けた明確な役割を含め、数多くの優先課題を掲げた「過去の教訓・和解委員会 (Lessons Learnt and Reconciliation Committee, LLRC)」による報告書と提言を受け入れました。ボランティアは、この報告書をコミュニティに持ち帰り、認識と理解を高めるとともに、地域住民を和解プロセスに参画させたのです。

**多くの
ボトムアップ型
ボランティア・
イニシアティブを
成功させる
ためには、大規模な
動員が不可欠**

グローバル・レベルでのインパクト

白書は、多様な分野横断的なグローバル・ガバナンス主体がローカル、国、グローバルという社会の全レベルに影響を与えるという観点から、ガバナンスの柱に取り組むボランティアリズムに焦点を当てています。ボランティアリズムを通じたグローバルな参画は、一般的に閉鎖空間の中で行われます。これは、政府を含むガバナンス主体は、ドナーや加盟国、株主、投資家といった他のステークホルダーとの関係を、市民やコミュニティよりも優先する傾向にあるからです。

国境を越えて結びついたボランティア活動キャンペーンは時折、ローカル、国、グローバルの各レベルで、アカウントビリティ向上のための空間を要求しています。グローバルな政策や条約を国内のボランティアの声や活動に結び付ける戦略は、アカウントビリティの問題を提起し、時にはプラスの対応も引き出しています。しかし、地域社会でのボランティアリズムに根差すCSOは、権力がある人々に必要以上の関心を向けさせ、現地の支持者や司法行政主体にとっての正当性を損なってしまうようなグローバル化の圧力に抗しなければなりません。

各部門内および部門間、また、各レベル内およびレベル間でのアライアンスの構築は、グローバル主体のアカウントビリティと対応を向上させることに貢献できます。企業や政府、市民社会からのボランティアは、アライアンスを構築したり、専門能力を共有したり、市民がすべてのレベルで、様々な政府主体とより効果的に連携できるようにしたりしています。国内レベルでの政策や、グローバル・レベルでの議論の流れを変えるために必要な規模の動員を独力で達成できる集団や組織はありません。複雑なアライアンスの構築は「ジュビリー 2000」や「コントロール・アームズ」キャンペーンなど、国や主体、ステークホルダー集団間で培われた多様性に依存するイニシアティブを成功に導くうえで、重要な役割を果たしています。西アフリカの農家と農業生産者は、個人ではなく、組織のネットワークとしての力により、地域政策に影響力を及ぼしました。国連はポスト2015年開発アジェンダに関する協議を行う際、市民社会やボランティア参画組織とのパートナーシップにより、草の根へのリーチ拡大を図りました。「ウォール街を占領せよ」運動や「民衆の気候マーチ」は、数多くのアライアンスを活用し、グローバルな議

論を生み出し、世界に声を届けるための勢いとリーチを作り上げました。どちらも具体的な政策変更には結びつきませんでした。個人と集団が国の垣根を越えて直接に連携し、従来の政府間フォーラムの枠外で共通関心事項に関する会話を生み出し、維持する能力には、グローバルな場での国や人々の関わり合い方を変える膨大なポテンシャルがあります。これは全く新しい現象です。

テクノロジーは、市民の参画にとって強力なツールであるため、その包摂的なポテンシャルを発揮できる形で発展させることが必要です。テクノロジーによって、オンラインでも現場でも、ローカルな、国際的な、そしてグローバルな課題に取り組むためのボランティア活動への参画機会のスピードや幅、多様性が向上しています。全世界の女性や、農村部の疎外された貧困コミュニティが抱えるデジタルアクセスの格差に取り組む必要があります。インターネットへのアクセスが限られている国は依然として多く、インターネットにアクセスできる女性は男性よりも少なくなっています。2013年の時点でも、インターネットにアクセスできる人口の割合は、北米の84%に対し、サハラ以南アフリカではわずか17%にすぎません。世界的に見たアクセス人口の比率も、38%にとどまっています。とはいえ、2000年から2013年にかけて、開発途上地域のインターネット普及率は、サハラ以南アフリカで4662%以上、アラブ地域で4210%、南アジアで3404%以上と、軒並み急激な伸びを示しています。また、グローバルなオンラインでの会話は、change.org等のサイトが多言語対応を行っているとはいえ、ほとんどが英語で行われています。これによって、参加し、発言できる人が限られてしまっています。

現地の草の根支持者、国の政策立案の場、そしてグローバルなフォーラムの間を行き来できる多様な戦略を採用するボランティアは事実上、数多くの声を伝え、グローバルな討論への参加を拡大する役割を担っています。こうしたボランティアは、多様なグローバル・ガバナンス主体にアカウントビリティと対応を強く求めているからです。

結論

各レベル、各種の空間において、極めて多様且つグローバルな文脈の中で幅広い戦略を用いて展開されているボランティア活動から得られた証拠は、5つの政策軸をはっきりと示しています。

**国内レベルでの
ボランティア主導
型イニシアティブ
の成功を大きく
左右するのは、
対応力のある
政府の存在**

ボランティアリズムは、声と参加、そしてあらゆるレベルの幅広い主体のアカウントビリティと対応の改善に貢献できる。

ボランティアリズムは唯一の正解ではないものの、真に人間中心型の開発モデルの導入に貢献することができます。それはより多くの人々の声を集め、市民社会のイニシアティブを支援するとともに、参加の拡大、アカウントビリティの強化、および、持続可能な平和と開発に向けたあらゆるレベルでの制度的対応を図る政府の取り組みを補完する、実質的なゲートウェイとなります。その方法は多岐にわたるものの、審議会、委員会その他のガバナンス・メカニズムなどにおいて、ガバナンスの問題に取り組むために、コミュニティの内部で長期にわたって活動する現地ボランティアの動員と参画は、特に重要です。ボランティアは、最前線での多くのプログラムで重要な実施役を務めており、その貢献は不可欠であるものの、ボランティアとして特定されたり、名前を出されたりすることも、活動の成否分析の対象となることもほとんどありません。よって、参加型のガバナンスでは、ボランティアをどのように認識し、さらに多くのボランティアを迎えるためにどのような空間を開放するかに関する考え方をシフトさせることが必要になります。また、活動の実施支援を期待されながら、活動自体の設計にも、計画にも、評価にもほとんど関与することがないこれらボランティアの声に、その他のガバナンス主体が耳を傾ける必要もあります。

ボランティアリズムには、公平な立場が必要である。

ボランティアは当然ながら、活動場所、ボランティア活動の体制、年齢、学歴、性別、能力といった点で、極めて雑多な集団で構成されます。この白書では、ボランティアリズムそれ自体が公平な立場で行われておらず、それ自体が独自の権力力学や上下関係を有することが示されています。ボランティアの空間もジェンダーにより分化しており、ボランティア集団によって、利用できる資金や支援のほか、権力者へのアクセスにも大きな差があります。ボランティアは異なる障害と異なる機会に直面するだけでなく、重要な空間へのアクセスにも差が見られます。

よって、女性がボランティア活動でも、ケアや支援の提供でも、要求・誘導空間での発言でも大半を占めているコミュニティや社会は多いものの、これらのほとんどについて、資金や支援が不足し

ているのが現状です。財源不足で政府が実施できないプロセスの補完として、ボランティアが使われることも多くなっています。また、より多くの女性の参加を可能にするために誘導空間が作られても、その声が無視されることが多くあります。貧しい女性はしばしば、移動や読み書きができなかったり、公の場での経験や交通費がなかったりするために、フォーマルなボランティア活動の体制に加わることで体が難しくなっています。グローバルな参画へのカギを握る最新の通信技術へのアクセスという点でも、実質的なジェンダー格差が見られます。世界の最貧層、特に女性は、国レベルとグローバル・レベルで、フォーマルなボランティア活動から排除され、国内的、国際的なフォーラムでの発言ができないことも多くあります。

ボランティアリズムが今後の持続可能な開発アジェンダの実現に全面的に貢献できるようにするための環境の整備は必須である。

ボランティアリズムの公益への貢献を最大限に高めるためには、それを可能にする環境の整備が必要です。ボランティアがガバナンスの改善のために貢献できることと、貢献できないことは、社会的、法的、政治的な文脈全般によって大きく左右されます。国と国民との間の政治的取引、現行の憲法、法的な枠組み、各国の社会機構、ローカル・レベル、国レベル、グローバル・レベルのガバナンスの相互作用、該当するレベルで活動するガバナンス主体の多様性といった、あらゆる要素が、各種の空間に誰が参加でき、誰が参加できないか、誰が発言できるか、そして誰が政策決定にかかわるかに影響してきます。

市民が参画しやすい（より具体的に言えば、ボランティアが参加しやすい）環境を政府が整備しているか、政府がボランティア主導によるコミュニティの取り組みに対応している場合には、より多くの人々が政策決定に参加できています。より全般的な法的・制度的枠組みが整っていれば、ボランティアリズムは市民の参画強化に最も大きな効果を上げます。その中には、言論や結社の自由、参画に十分な包摂的空間の存在が含まれます。

協力やアライアンス、マルチステークホルダー型パートナーシップは、ボランティアリズムの成功に欠かせない。

政府と市民社会との間の協力は、新たな法律や体制の導入という形で結実しています。政府とCSOの緊密なやり取りを可能にすれば、ボランテ

ボランティア
リズムは真に
人間中心型の
開発モデルの
導入に貢献できる

ィアの参画によって、政府の政策実施能力を高める経路を作り出すことができます。

市民社会は政府、民間セクターその他の主体とのアライアンスを構築し、ボランティアを共通の目標に向けて参画させることにも努めています。特にローカル・レベルのインフォーマルな要求空間における集団行動を通じ、コミュニティが、変わりゆく参画のルールについての知識や理解を深める中で、ローカル、国、グローバルの領域を越えたガバナンス関連の開発問題に取り組む戦略として、アライアンスやパートナーシップを構築する価値も見えるようになってきました。ボランティアは、社会的、経済的、環境的なグローバル課題への取り組みに時間と知識、専門能力を行使することで、政府や、より幅広い市民社会による取り組みを補足したり、これに異議や疑問を唱えたりすることができます。グローバルなレベルでは、共通のアジェンダを有するボランティア集団が国境を越えて協力し、意見を表明したり、グローバルな場に参加したりしています。望ましいグローバルな合意や政策、条約、ボランティア基準を推進する機会も多く存在します。そして、これらによって、ローカルと国レベルでの取り組みの正当性や知識、資源を充実させることができるのです。

調査を通じて理解を深めることが不可欠である。

この白書は、異なるレベルの異なる空間で、アカウンタビリティと対応力のある参加型のガバナンス・プロセスを支援するために、ボランティアに何ができるのかに関する対話の出発点となるものです。しかし、資源としてのボランティアリズムのポテンシャルを今後、十分に発揮してゆか

めには、残るデータ面での課題に取り組まなければなりません。まず第1に、全世界で展開するボランティアの極めて多種多様な形態を定義、説明するという課題があります。第2に、各種ボランティアリズムの大きさ、範囲および展開規模を定量的に把握しなければなりません。そして第3の課題としては、多様な文脈に根差した、より定性的なケーススタディを通じて、ボランティア活動の微妙なニュアンスや特性、複雑な貢献内容を把握することが挙げられます。これら3つの課題についてはいずれも、さらに調査を行うことに意味があるでしょう。加えて、異なる国々でボランティア活動がどのように定義、実践されているかに関する、文化面に根差した定性的データを含めたデータ収集の改善に対する真摯なコミットメントも必要となります。

ボランティアの開発に対する貢献を測定することは重要です。また、ボランティアがローカル、国、グローバルの各レベルで開発を監視し、これについて報告できるようにすることも大切です。この意味で、開発に参画し、ガバナンス主体のアカウンタビリティを問い、対応を確保するという人々の意志と決意にテクノロジーを組み合わせれば、開発アジェンダ実現に向けた進捗状況について監視、報告するボランティアとして市民を参画させる、もう1つの機会が生まれます。「マイ・ワールド（訳注：国連の世論調査）」には数百万人が参加し、ボランティアは最大限の参画を確保するためのコミュニティの連携を促しました。インターネット技術や携帯電話を利用できる人々が増える中で、ガバナンスの全レベルで参加性、アカウンタビリティ、対応力を確保するため、この機会が活用されるべきです。

資源としての
ボランティアリズムのポテンシャルを今後、十分に発揮してゆくためには、残るデータ面での課題に取り組むことが必要

UNVに関する詳しいお問い合わせ先

UNVに関する一般的な情報については、下記にお問い合わせください。

国連ボランティア計画

Postfach 260 111
D-53153 Bonn
Germany

電話：+49-228-815 2000

Fax：+49-228-815 2001

www.unv.org

Facebook： www.facebook.com/unvolunteers

Twitter： www.twitter.com/unvolunteers

YouTube： www.youtube.com/unv

UNVニューヨーク事務所

Two United Nations Plaza
New York, NY 10017

電話：(+1 212) 906 3639

Fax：(+1 212) 906 3659

Email：ONY@unv.org

国連ボランティアになるための情報については、UNVのウェブサイトをご覧ください。

www.unv.org

UNVオンライン・ボランティア活動サービスについては、下記をご覧ください。

www.onlinevolunteering.org

この印刷物は再生利用可能です。



UN

Volunteers

inspiration in action